

製品・サービス動向-国内

■RevComm：「MiiTel for Zoom」を提供開始、
AI がオンライン商談を解析

(PRWire：7月7日)

株式会社 RevComm (<https://miitel.revcomm.co.jp/jp/>) (東京都渋谷区) は、Zoom での商談の振り返りやセルフエデュケーションに活用できる、新サービス「MiiTel for Zoom」の提供を開始した。

MiiTel for Zoom は AI 搭載オンライン商談解析ツール。Zoom での商談に AI による文字起こしとトーク分析機能を付加することにより、Zoom 商談の可視化、社内共有を可能とし、営業の生産性向上を実現する。オンライン商談の記録や共有にかかる工数を大幅に削減し、セルフコーチングを促進し、教育工数を削減するメリットがある。



MiiTel Analytics (RevComm)

特長は以下の通り。(1) 商談内容の記録・保存、録画の一見管理。ベータ版にて提供開始。(2) AI による全文文字起こし機能。Zapier 連携により文字起こしを Google ドキュメントに書き出すことが可能。フィルター抜き機能もある。ベータ版にて一部提供開始。(3) トーク比率、被り、沈黙などが定量的にフィードバックする音声解析。(4) 商談内容の Salesforce などへの連携。(5) タイトル、参加者名、録画の長さ、商談のタグ付

けなどから、商談内容の検索が行える、(6) 商談の内容を AI が解析し、どのようなトピックが話されたのか判定を行う。(7) 商談にコメントをつけて共有することができるコメント共有。気づきやフィードバックをその場で共有できる。(8) タグ付け機能。後から確認すべき商談をプレイリストとして保存できる。

RevComm (レブコム) の音声解析 AI 電話「MiiTel」は、電話営業の見える化を通じ営業生産性の向上に資する。インサイドセールス市場を中心に、営業やコールセンター業務におけるトークの可視化とセルフコーチング、リモートワーク体制構築に活用されているという。今後も、「コミュニケーションを再発明し、人が人を想う社会を創る」というミッションのもと MiiTel の提供価値向上に努め、企業の生産性向上に貢献していくとしている。

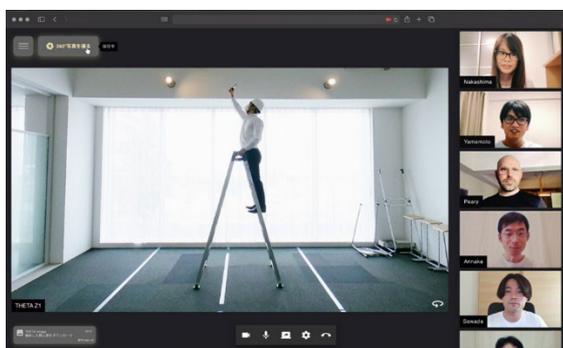
■リコー：4K 画質まで対応した映像と音声の
リアルタイムな双方向配信サービス
「RICOH Remote Field」の提供開始

(6月30日)

株式会社リコー (<https://www.ricoh.co.jp/>) (東京都大田区) は、4K 画質まで対応した映像と音声のリアルタイムな双方向配信サービス「RICOH Remote Field」(<https://www.ricoh.co.jp/service/remote-field>) の提供を7月1日より開始する。

RICOH Remote Field は、リコーのクラウドプラットフォーム「RICOH Smart Integration プラットフォーム」を活用したサービスとして、安定した接続品質を実現した映像・音声のリアルタイムかつ双方向な配信を実

現する。ライブストリーミングの映像は、パソコン、タブレット、スマートフォンのウェブブラウザから視聴できる。



RICOH Remote Field のイメージ (リコー)

リコーがこれまでテレビ会議・Web 会議システムなどで培ってきた動画や音声などのメディア帯域制御の技術により、映像の高品質と低遅延を両立し、4G などのモバイルネットワーク環境においても安定した接続が可能になっている。また、4K (3840x1920) 画質まで対応し、リコーの 360° カメラ「RICOH THETA」やウェアラブルカメラ（推奨：VUZIX M400）などとの組み合わせで、360° のリアルタイム映像を共有することができる。画角が限定されることなく現場の資格情報をまるごと共有できるため、見落としが発生しづらく、現場の状況を臨場感を持って体感することができる。

映像と音声の双方向配信によってさまざまな空間と空間とをリアルタイムにつなぐことで、遠隔地同士のコミュニケーションを支援する。建築・建設土木業における遠隔臨場や安全パトロールをはじめ、製造業でのリモート点検支援、小売業での遠隔商談などさまざまな業種業務での活用を想定しているという。

RICOH Remote Field の費用については、利用時間に応じて「標準プラン」と「ライトプラン」があり、それぞれ用途に応じて「Premium」「Standard」「Basic」を用意している。たとえば、ライトプランの Basic だと月額基本料（2 時間の利用時間を含む、超過時間の

利用料を除く）が 4,500 円。また、標準プランの Basic だと月額基本料（20 時間の利用時間を含む、超過時間の利用料を除く）が 30,000 円。

今後拡大が見込まれる高速・低遅延な 5G インフラを活用することで、さまざまな現場や用途への展開が期待できるため、リコーとしては、対応デバイスの拡充や、利用人数を増やすことでイベントでの配信への対応など、継続的に機能の拡充、サービス品質の向上に取り組みながら、多様な産業分野への提案を進めていくとしている。

製品・サービス動向-海外

■Zoom 社：ハイブリットワーク環境に最適化されたパッケージ「Zoom One」、プロダクトの分類をわかりやすく最適化、翻訳キャプションと自動キャプションの 10 言語対応を発表

(Blog、Press Release：北米 6 月 23 日)

Zoom Video Communications 社(<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、ハイブリットワーク環境に最適化されたパッケージ「Zoom One」を発表。

Zoom One は、チャット・電話・会議・ホワイトボードなどのオプションをひとつのセキュアでかつスケラブルなパッケージにまとめた新しいサービス。

ハイブリットワーク環境の浸透にあわせ、お客様の現在と将来のビジネス需要を見据え、Zoom で解決できる課題がよりわかりやすくなるようにこれまでのプロダクトの分類を最適化したのが今回の狙い。Zoom One によってお客様がより柔軟な働き方が可能になり、また事業の変化にも常に適切に対応できるようになっているという。

2022 年には、オムニチャンネルのクラウドコンタクトセンターソリューション、デジタルホワイトボード、

会話型インテリジェンスソフトウェアが加わるなど、Zoom のプロダクトポートフォリオは目覚ましい発展を続けている。そこで、お客様との“関わり方”をよりシンプルにするのが責務と考えた。価格体系もわかりやすいようにシンプルにしたという。

Zoom One は、お客様のビジネスニーズに応じて 6 段階の製品から選択できるようになっている。

(1) 「Zoom One Basic」：最大 100 人の参加者に無料の 40 分間のミーティングのほか、チャット、ホワイトボード、リアルタイム文字起こしを提供する。

(2) 「Zoom One Pro」：時間制限を満たさずに Zoom One Basic が提供するすべてのものに加えて、クラウドレコーディングが提供される。

(3) 「Zoom One Business」：Zoom One Pro が提供するすべてのものに加え、最大 300 人の参加者を対象としたミーティングと無制限のホワイトボードを提供する。

(4) 「Zoom One Business Plus」：Zoom One Business が提供するものに加え、無制限の地域通話、Zoom の新翻訳機能を備えた「Zoom Phone Pro」を提供する。

(5) 「Zoom One Enterprise」「Zoom One Enterprise Plus」：Zoom One Business に似ているが、会議の容量が大きく、また、Zoom Webinars などの追加機能により、最新のビジネス拡張に対応している。「Unlimited Regional Calling」は、Zoom One Enterprise、Zoom One Enterprise Plus のオプションのアドオン機能となっている。

以上の Zoom One の発表に加え、今回、翻訳キャプションと自動キャプションについての発表もされている。

Zoom One Business Plus および Zoom One Enterprise Plus に、新たな翻訳キャプションが用意された。ユーザが選択した言語に翻訳されたキャプションをミーティング中に表示することが可能になる。発売時には、英語と 10 の追加言語の間、または 10 の言

語のいずれかから英語への翻訳が利用可能になる。対応言語は、中国語（簡体）、オランダ語、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、日本語、韓国語、ロシア語、スペイン語、ウクライナ語の 10 言語。

自動キャプション、つまり、話者が話している言語と同じ言語で話者が話していることをリアルタイムでキャプションする機能を拡張して、これまでの英語に加え、10 の言語（先述）を追加した。Business Plus、Enterprise、Enterprise Plus パッケージで利用でき、他のプランでも間もなくサポートされる予定という。

Zoom 社によると、シンプルさは同社が行う全ての核心という。Zoom プラットフォームが会議アプリから包括的なコミュニケーションプラットフォームに進化するにつれて今回の Zoom One の発表は同社の進化の次のステップと位置づけている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（7月）

「実演！ライブ配信・ビデオ通話アプリ開発」「メタバース×Web 講演会」「AI で解決！製薬業界のマーケティング担当者・DX 部門必見セミナー」「ぶらっとオフィス見学 Days！ブイキューブの働き方をお見せします」など
会場：オンライン/オンデマンド
詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（7月）

「Webex Webinars：基本」「代表電話がどこでも取れて生産性アップ！体感型 Webex Calling ウェビナー」「Webex Meetings：共有の活用方法」など（録画も視聴できます）
主催：シスコシステムズ合同会社
詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<https://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2022年7月15日号おわり

ホームページ: <https://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp